

1. 屋良朝苗日誌について

屋良朝苗日誌（以下「日誌」という。）とは、米国統治時代の琉球政府で初の公選主席、本土復帰後の沖縄県で初代の沖縄県知事を務めた屋良朝苗氏が、1953年（昭和28）1月から1985年（昭和60）10月までの三十年余りにわたって書きつづった125冊の日記とメモ帖類である。

日誌の原本は屋良氏の遺族により読谷村に寄贈され、沖縄県公文書館は原本から複製を作成して所蔵している。

2. 日誌の公開及び翻刻の利用について

(ア)日誌の公開について

沖縄県公文書館では、手書きの文章を読みやすくするために、ワープロによる翻刻作業を進めている。本翻刻はその成果の一部である。

日誌は、沖縄県公文書館の設置及び管理に関する条例第11条の規定により、個人の秘密の保持その他合理的な理由により利用に供することが適当でないと判断される情報については黒塗り処理を行っている。

(イ)翻刻の利用について

日誌の一部を出版物等に掲載しようとする場合は、沖縄県公文書館管理規則第9条（出版物等への掲載）の規定により、あらかじめ「出版物等掲載許可申請書」を沖縄県公文書館指定管理者に提出し、その許可を受けなければならない。

翻刻に誤りが見つかった場合には、都度、改訂するものとする。その際には改訂箇所および改定日が分かるようにする。

3. 凡例

(ア)文体・語句・送り仮名について

- 語句は基本的に原文のまま表記した。
- 誤りと思われる語句は後ろに〔ママ〕と付した。
- 当て字は原則そのまま表記したが、分かりにくい場合には、〔 〕で正しい漢字を補足した。
(例) 渡屋〔都屋〕
- 判読できない文字は、文字ごとに■で表記した。何文字かが不明な場合は、■■●〔■■■?〕のように表記した。

- 語句を補足したほうが意味が分かりやすい場合には、[] で補足した。
（例）[昭和] 43年
- 送り仮名は、意味が通る場合には訂正せずにそのまま表記した。
- 脱字がある場合には、[] で補足した。

(イ)句読点について

- 句読点は書かれている通りに表記した。

(ウ)漢字の表記について

- 旧漢字はそのまま表記した。
- 略漢字は正しい漢字に直した。

(エ)書き損じ・見せ消しについて

- 屋良氏により書き損じが訂正されている場合には、訂正後の語句を表記した。
- 屋良氏による見せ消しは、そのまま残した。

(オ)改頁・改行・スペースについて

- 原本において日記の文章が次頁まで続いている場合は、翻刻においては改頁せずにそのまま続けた。
- 翻刻における改行は基本的に段落の前後のみとし、日誌原本にある改行とは必ずしも一致していない。
- 屋良氏自身が空けた文中のスペースはそのままとした。
- 段落の初めは一字空けた。

(2019年3月31日)

35

昭和47年6月30日上京

1、29日に当選証書交付、直ちに全県民にテレビ、ラジオを通して初代知事就任のあいさつを送る

2、6.30 県庁登庁、組合員に依る歓迎式、続いて県庁職員に対し訓辞

3、午後 直ちに上京する、

① 目的、佐藤総理在任中に知事当選あいさつ、と在職中の沖縄問題に対する好意と努力、その解決につくされた労苦と業績に感謝し、今後残された問題の解決に御協力を要請する。山中総務長官についても同じ 又 渡海自治大臣に対しても同じ

② 選挙に当って声援してくれた野党各党 社会、公明、共産、民社に御礼のあいさつまわり 且 総評、同盟、中立労連、日教組 美濃部知事 飛鳥田横浜市長

沖縄県人会その他に御礼あいさつ

③ 埼玉県知事選挙に応援、陣中御見舞の程度となろう。

④ 海洋万博関連施設の第一次要請 通産省、建設省、運輸省、大蔵省歴訪

⑤ 全軍労の問題で防衛施設庁訪問要請

⑥ 日程、7月1日 10時半 佐藤総理

(イ) 会見 約30分

全、午後1時 渡海自治大臣

全 2時 山中総ム長官

午後3時から埼玉へ。

7月3日 通産省、稲村政ム次官の予定だったが企業局長に会う

(ロ) 7月4日、
 { 建設事ム次官
 運輸事ム次官
 大蔵事ム次官
 11時 田中通産大臣
 1時半、防衛施設庁長官

(ハ) 7月3日、総評 中立労連、同盟、日教組
 東京都知事、民社党、共産党
 横浜派、県人会

(ニ) 7月1日、社会党、公明党

4、総理との会見 7. 1. 10. 30～11時

- ① 総理へ再選あいさつ、今日までの御苦勞をねぎらい、且その御努力に感謝すると共に、残された問題解決に協力要請する
- ② 特に基地問題については、その整理縮小は姿勢と方向は示されたが具体的に実現せしめる事が出来なかった事は残念であるともうされていた
- ③ 物価問題についても心配し質問されていた
- ④ 未解決の沖縄問題については次期内閣に協力方を強く引ついでもらいたい事を申し出たのに対し了解された 今後もそれぞれの立場から協力を約束され、終始好意的な会談だった。選挙には総理と山中長官が行かなかった事 良かっただろうと笑い話しをして居られた、又 大田君とは戦いやすかっただろうとも笑って居られた。
- ⑤ 山中長官が沖縄問題解決につくした功績は政党政派をこえて県民が高く評価し、感謝している。山中大臣を長期担当大臣としてその職に止めておいた総理の取計いに県民を代表して感謝を申しあげた。

5、山中大臣 2～3時 岡部次官立ち合い

- ① 今日までの好意と努力に感謝し、その業績をたたえる 大臣が担当大臣だった事を幸福に思うと実感をのべた
- ② 今後未解決の問題についてそれぞれの立場からの御協力を要請する。了解する 内閣改造後、御夫婦で沖縄に遊びに来られる様に話した 了解があったものと思う
- ③ 今後の沖縄問題についても超党派的に考えるべきものである。沖縄に対しては 国はいくら報いても過ぎる事はないと云う所信を今日も強調して居られた
- ④ 今後、沖縄開発の予算措置等はよって立つ法が制定されて居るからこれが改悪でもされない限り心配はない。只 懸念される事は予算を消化されない時た [ママ]。それを口実に予算を削減される事があつたら大変だ 尤も予算消化は今後は沖縄県丈 [ママ] の責任ではない 総合事ム局の責任でもあると強調して居られた 大臣は徹頭徹尾 沖縄をかばい力のかしてやると云う態度でつらぬかれて居る。
- ⑤ 心残りは10月8日確認純資産のその後の伸びに対する補償推計32億の政府支出が決定していない事だとのべて居られた 大蔵省の壁は非常に厚いとの事 最後の閣議で かい決したいのだが大蔵大臣はそれをさけようとしている。
- ⑥ かいけつ出来ない場合は文書にして後継大臣に引ついで置くと云って居られた。

⑦ 埼玉行きについては沖縄の為にはどうかと思うが しかし義理もあるだろうから その事については自分は知らない事にしておくと話して居られた

この様な態度は実に立派だ 今後私に対政府的に不利になる時は誰が取りなすかが心配になるが結局自分（山中大臣）が買って出なければいけないだろうともらして居られた。

6、自治大臣については特記する事なし

7、海洋万博について

7. 4 11時 田中通産大臣

① 大臣は海洋万博の企画推進者であるので是非これを成功させてくれと要請したのに対し

② そうしよう

仕事は大阪万博に比べおこなっているが しかし沖縄は雪も降らず年中仕事が出来から馬力をかけたら大丈夫と思うと云って居られた

③ 沖縄の社会資本や産業基盤のおくれを一挙にかいけつするチャンスであるから必ずその意味からも成功させねばならぬと決意を表明さる

④ 沖縄の過疎化を防ぐ意味からも是非成功させたいと。

8、建設省坂野重信事ム次官 縦貫高速道路についてはやや批判的 検討するとの事

9、運輸事ム次官

高林康一次官

10、大蔵事ム次官 吉国二郎氏 何れも協力要請する

11、防衛施設庁長官 高松敬治氏

次長 鶴崎 敏氏

労務部長 平井啓一

労ム調査官 相場正敏氏

当方は前田部長、比屋根課長と一緒に1時間以上も話し合う

要請事項は次の通りである

① 就労時間短縮の撤回又は実施延期

② 解雇の撤回又は予告期間の遵守

③ スト期間を夏季手当の除算日数に含めないこと。

④ タグボートの請負制移行中止

⑤ 組合活動家の懲戒解雇撤回

⑥ 現地解決が出来る出先機関の設置

⑦ 労務管理の基礎資料移管

⑧ 現地における組合の対米軍交渉機関の設置

③の件について、全軍労の幹部と話を進めている

④現在の姿維持する

⑤については事実関係調査中

⑥⑦⑧については直ちに制度の改善は困るんだが事務堪能な専門家を軍からも沖縄に派遣して沖縄現地 軍の指導に当らせる等、又政府側も専門事務官を沖縄に送り込んで沖縄側と具体的の仕事の進め方について検討させる等対策を講じたいと云っていた、専門事務官を派遣して具体的に問題を調査検討して今後仕事の筋道を立てていく事については私からも要求する。

7. 11、メイプルス少将と初会談

米国駐沖総領事も立ち合う

会談内容次の通り

1、全軍労の問題

施設庁長官等と話し合った事で現地軍関係者で処理出来る問題もあろうからその事を要談したい為であった

2、テトラ、エチル、鉛廃棄に対する抗議とその即時撤去要求、

その経過と今後の処置について。

3、B52の飛来について。

4、普天間の飛行場離着陸が多くなり、したがって那覇上空飛行が多くなった。それに対する対策要請

5、金武上空の爆音の排除 嘉手納の爆音対策

以上の様な事を話し要求要望したのであるが はじめから全々[全然]に 話に乗ってくれない 話を聞いていると全く一兵卒の話しと変らない。私が話す前に自分の話し得る事はテトラ、エチル 鉛の事丈 [ママ] だからその他の話には言及する事は出来ないと云っていた。

しかし全軍労の問題についても原則的にはメイプルの所では権限を超える事かも知れないが問題に依っては現地で処理出来る事があるかと思われるので私は前田部長を伴い用件を文書にして手渡し、説明を進めていこうとした それに対しての答えは

① 現在の組織内では取りあげる事が出来ない 禁止されている この種の問題は外務省→米国大使館→日米合同委員会の順にあげられてそれを在日軍上級将校が取扱うと云うのである

合同委員会は外務省、施設庁 大使館、駐日米軍の代表からなる組織である。

② (イ) 全軍労の問題については日本の法規に照らして正規のルートを通じて実施するものである。

(ロ) 懲罰処置については聞いていない。調べて見る。誤解であるかも知

れない。行き違いがあつての事ならば懲罰の処置は取らない。LMO→施設局
こちらの提供しているのは仕事の場丈 [ママ] であつてその他諸措置は上部か
らの意志を実施しているものである

組合活動家を夜勤にまわして居ると云う事についても調査して見る、組合活
動家と云うのはどんな人々の事かも分らない。

自分にいろいろ連絡してもらえるのは施設庁の銅先局長であると云っている。
とすると知事の申し出は受けられないと云う事になるのでこの点検討を要する

要するに彼は上司からの指示の範囲でしか動けない。しかし知事の気持は上
司に伝える。結局外務省を通じて問題にしたい。

2、について

テトラ、エチール 鉛 検討が加えられている

焼くか（焼火炉がない）

蒸発か（空気中にさらしておく）

地下に埋めるか

この度のテトラ、エチール鉛は上層は地面から4■ [尺?]の深さである 河
川、地下水、等影響について調査中 地域に毒性がなくなるのにどの位かかる
か しかし地下に埋められている——周囲に影響ないと専門家は云っている
当方の専門家一害なし 取り除く事を強く要求する！

処置の決定——努力する

◎地下に埋めておくと2ヶ年間に毒性がなくなるとも云われる

この度の品は去年の九月に埋めてある。

私の方からサンプル（現物）の提供を求める。この件は了解した（藤田氏、
大平氏に連絡の事）

昭和47年7月13日 上京

用件

総ム長官が近々の内に渡沖するとの事で その前に表敬、祝意の為、その他
総理はじめ各新閣僚に表敬

B52の撤去要求

海洋万博について依頼 等、

又 沖縄は県になったがさまざまな問題をかかえているので他の既成の県と
は違い私は知事になったが他府県の知事とは特殊の問題をかかえているので自
ら違う立場にある したがって従来より諸大臣との折衝もむしろ数多くもたね
ばならないので宜しくと念を押す、OKさる

特に総ム長官には山中大臣からの引きつぎ事項の解決について特にお願ひす、
OKさる

7. 13 10時 総ム長官に会う

政務、事務、両次官立ち会う 特に印象に残っている事をあげる

◎執行の出来る事からやっていく

出来ない事をかれこれ云っても仕方がない事であり、又それが県民の福祉にもならない

◎嘉手納は一人で特別視察をした

開発庁は北海道の経験もあるので沖縄も開発庁を設置したらとその時に云い出した それからこの問題が云い出されたのだとの事話を話して居られた。

7. 13日 10時35分から木村建設大臣に会う

万博関連道路 要請する

① 高速度道路、必ずやると約束さる

② その席で直ちに事ム次官（坂野）に電話して やると返事をせよと指示さる

③ 沖縄再建の為にやるべき事は何でも云って来いと激励さる

④ 極めて積極的

好意的政治が官僚に支配されてはならない 政治が官僚を支配するのでなければと持論と抱負をぶって居られた

政治はやると返事をする事だと断言さる

◎7. 13日 11時25分 総理と会見

約10分位か、

時間も変更していても気軽に会って下さる

復帰処理 OK

B52の飛来疎止 OK

万博道路 OK

糸洲君、新垣くんも一緒によいかと聞いたら かまわぬとの事で一緒する。この点も前総理の時とは違う様に思う 尤も前の総理の時も官僚的な措置はご本人の意志ではなく側近の取はからいであつたのではないかと思う。

◎11時45分 自治大臣 福田一氏

今後の協力要請 OK

◎10時半 大平外相 外務参事官 橘正忠氏

基地問題の解決は米軍の機構上従来以上に外務省の協力を求めねばならない

ので協力要請に対して了解する。B52の飛来については早速大使館側を呼んで撤去申し出をした 今後飛来せぬ様 外交交渉要請に対してもOK

しかし今後 低気圧が起る時 又飛来する様な事があるかも知れないと頼りない消極的な事を云っていた かくては県民を含む国民が承知すまい 本土並み基地の理念にも反すると念を押す、 それに対しては了解されたと思うが しかし前の言からすると誠に頼りない交渉経過は文書で報告してくれとの要望に対し了解した

◎3時40分 通産大臣

高速道路推進 強く発言する 但し土地取得については知事が責任をもつかと質問があった

責任をもつと断言したので閣議で強く推進すると確約した

◎4時30 経企庁長官

協力要請に対しOK

木村前大臣にも会った

◎4.50 官房長官にあいさつ

B52については申し出OK

その他二、三について話し合う

◎14日 1時20分 大蔵大臣

早く気持の上で一体化してもらいたいと向うから要望していた

さしあたり海洋万博に協力 OK

◎1時40分 安達農林大臣、2、20分 防衛庁長官、島田次官

4、50分 建設大臣に呼ばれ、事ム次官

高橋道路局長と喜久川部長 新垣出納長も一緒に会う

建設大臣から万博関連道路の件 強く云われた事もあつてか非常に感情的な発言もあつて喜久川君に強く当っていた。しかし結局は建設省から技術者を派せんし調査し、技術者の言にしたがう事にしようとする事で2時間位の議論を打ち切る 彼等が云うには嘉手納までは6車線、嘉手納から仲泊まで4車線、仲泊から東線に4車線、久志まで東線を4車線にし、石川から名護まで東より高速度道路をつくと云うものだ。石川以南の縦貫高速道路は着手してもよいが万博には間に合わないと云うもの、那ハから読谷までの高速道路は将来つく

っても良い この度は絶対無理と云って強硬だった。

◎7月15日

文部大臣、運輸大臣、労働大臣 三木国務大臣 三池郵政大臣歴訪して その日に帰任する